

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 9 月 25 日現在

機関番号：13103

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2020～2023

課題番号：20K02454

研究課題名(和文)「いのち教育」の理論とその実践方法に関する臨床教育学的考察

研究課題名(英文) A clinical pedagogical study on the theory of "Inochi education" and its practice

研究代表者

稲垣 応顕 (Inagaki, Masaaki)

上越教育大学・大学院学校教育研究科・教授

研究者番号：90306407

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、いのち教育の理論構造と実践の方向性について、臨床教育学の観点から明らかにした。最大の成果は「いのち教育」という概念の定義化にある。これは、【いのち=教育】という構図を基本として、いのちが客体化から外れ人間中心主義的な近代知に収まらない超越性を含んだはたらきであることから、いのちから学ぶ/いのちにふれる、という生命の尊厳への内発的な気づきを醸成する教育と定義できる。これにより教育実践プログラムのための理念が構築可能となり、自死、病気、障害、生命操作、死の決定権、暴力、受苦、死者、死後生、生まれる意味、食に関わる矛盾、ニヒリズム等のいのちの課題に向き合う教育の基盤が成立することを示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、教育実践における「いのち」の捉え方として、その中核に超越性を位置づけた点が挙げられる。このことから、いのち教育は死生観教育、宗教情操教育、生きがい教育、スピリチュアル教育、ホリスティック教育、マインドフル教育などとの接合が可能となる。また、スピリチュアルケアやグリーフケアの教育的転回となることも位置づけられた。

本研究の社会的意義は、公教育の場におけるいのち教育の対象者を明らかにした点が挙げられる。それはまず学校現場での児童・生徒を想定できるが、さらに援助職の従事者ならびに志願者、ファシリテータとしての教師に広がる必要があること、そして一般市民の生涯教育につながっている。

研究成果の概要(英文)：This study clarified the theoretical structure and practical directions of life and death education from the perspective of clinical pedagogy. The greatest achievement is the definition of the concept of "life and death education". Based on the assumption that 【life and death = education】, "life and death (jap. Inochi)" is a function that cannot be objectified and contains a transcendence that does not fit into anthropocentric modern knowledge, it can be defined as education to foster an intrinsic awareness of the dignity of life, learning from inochi and experiencing inochi itself.

This enables the construction of a philosophy for educational programs and establishes a foundation for education that addresses issues of life and death, such as suicide, illness, disability, life manipulations, the right to decide death, violence, suffering, the dead, life after death, the meaning of birth, Contradictions related to food, nihilism, and so on.

研究分野：生徒指導論 教育相談

キーワード：いのち教育 死生学 死生観教育 スピリチュアルケア グリーフケア 生命の尊厳 宗教情操教育

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

研究開始当初の背景は、次の二つが挙げられる。

一つには、京都大学大学院教授の西平直を中心に進めてきた「無心のケア」に関する理論研究である。「無心のケア」とは、「日本的スピリチュアルケア」を探究する中で見出されたケアのあり方である。日本の精神文化において重要な実践概念である「無心」には、我を手放す、心を解き放つという意味があるが、ここから「無心のケア」の実践では、無心になることで「大いなるいのち」のはたらきを実感する、という精神変容の構図を捉えている。この「無心のケア」の考え方を臨床教育の具体的場面で実現していくための実践方法として「いのち教育」に取り組む意義が提起された。

二つには、上越教育大学名誉教授の得丸定子を中心に行われた「いのち教育」の実践研究である。得丸は、日本の精神文化に根差した学際的で実証的な「いのち教育」研究を切り開いた先駆的存在であり、「いのち教育」という用語の発案者の一人で、上越教育大学に「いのち教育」研究の伝統を作った功績をもつ。得丸は、学校教育における「いのち教育」の授業プログラムの研究にも着手していたが、その趣旨は「死を見つめることでいのちの大切さを知る」という「死生観」教育を常に意識していた。本研究は、上越教育大学における「いのち教育」研究の伝統を継承していく責務を担って、着想するに至った。

2. 研究の目的

本研究の目的は、日本の文化的宗教的な思想背景をもつ「いのち教育」の理論と実践方法を構築することであり、これを臨床教育学の観点から包括的に考察することである。

具体的には、次の4つの研究活動を基軸として進めていく。

「いのち教育」に関連する国内外の文献資料の集積・解析

「いのち教育」の理論と実践方法の構築（教育思想研究・事例調査研究）

「いのち教育」に関する大学講座の開講（リレー講義）

実践フォーラムの開催（教育・医療・福祉・心理・宗教等の諸領域の交流）

3. 研究の方法

「いのち教育」に関連する国内外の文献資料の集積・解析

「いのち教育」研究は、多岐にわたる学問領域と接しているため、幅広い文献資料の集積が求められる。まずは本研究の基準となる学問として、死生学に関する国内外の文献資料を集積・解析し、これを先行研究として整理していく。また、国内では「いのちの授業」の実践事例も多く行われているため、これに関する文献資料も随時集積していく。さらに、理論面での研究のために、宗教哲学、生命倫理学、医療人類学、教育人間学などの知見を含む教育思想研究に関わる文献資料を、実践面での研究のために、スピリチュアルケア、緩和ケア、グリーフケア、遺族ケア、マインドフルネス、道徳教育、生徒指導、学校カウンセリング、心理臨床などの事例調査研究に関わる文献資料を、それぞれ集積・解析していく。

「いのち教育」の理論と実践方法の構築（教育思想研究・事例調査研究）

本研究の研究体制の中核として、定期的実施する「いのち教育」に関する研究会を置く。研究会では、教育思想研究ならびに事例調査研究に基づいて、研究者各自が「いのち教育」の理論構築に向けて分析考察を行った成果や実践事例の検討などを発表する。また、日本の伝統的な文化慣習や宗教事情などを考慮した「いのち教育」の具体的な実践方法について実証的検証を重ねていく。その上で、臨床教育学の考察の観点から各自の理論を比較し、その統合と精査を試みる。さらに、後述する公開講座や実践フォーラムなどで研究会での成果を公表するとともに、最終的に一冊の学術書としてまとめ出版する。

「いのち教育」に関する大学での公開講座の実施（リレー講義）

研究会での成果や研究ネットワークを活用して、上越教育大学において「いのち教育」に関する公開講座を実施する。対象は主として上越教育大学と新潟県立看護大学の院生とする。形式はリレー講義とし、講師は研究代表者と研究分担者が持ち回りで担当する。また、外部から講師を招聘して講演していただく。この講義は教育分野と医療分野の連携であり、教員養成と看護師養成の教育課程にある学生に伝えていくことで、「いのち教育」を次世代に後継していく意義をもつ。

実践フォーラムの開催（教育・医療・福祉・心理・宗教等の諸領域の交流）

年に1回、上越教育大学において「いのち教育」をテーマとする「実践フォーラム」を開催する。ここでは学校教育・医療看護・介護福祉・心理臨床・宗教などの現場で死生学や教育実践に関わっている人々が一同に集い、テーマを介して交流や意見交換などを行う。こうした対話の場を設けることで、「いのち教育」研究の公益性を見出すことが可能になる。

4. 研究成果

研究活動の実際

定期的に研究会を開催する（およそ3ヶ月に1回のペース）。新型コロナウイルス感染防止対

策基本的にはオンライン（ZOOM）を通して行った。2020年4月から2024年3月までの4年間で、16回の定例会を行い、8名の有識者に外部研究発表者として連携を取った。また、2021年11月には、実践フォーラムとしての公開セミナーを行い、「いのちの学びはなぜ必要なのか」をテーマとし、シンポジスト3名、コメンテーター3名を講師として招聘した。2023年9月には、日本人間性心理学会第42回大会の自主シンポジウムに参加、「いのち教育をめぐる学際的考察 学校教育・心理臨床・人間性心理」をテーマとし、学校教育に関わる実践者3名を招聘して企画を行った。

研究の学術的成果

最大の成果は「いのち教育」という概念の定義化にある。これは、【いのち=教育】という構図を基本として、いのちが客体化から外れ人間中心主義的な近代知に収まらない超越性を含んだはたらきであることから、いのちから学ぶ/いのちにふれる、という生命の尊厳への内発的な気づきを醸成する教育と定義できる。

これにより教育実践プログラムのための理念が構築可能となり、自死、病気、障害、生命操作、死の決定権、暴力、受苦、死者、死後生、生まれる意味、食に関わる矛盾、ニヒリズム等のいのちの課題に向き合う教育の基盤が成立することを示した。

また、本研究の学術的意義を位置づける場合、教育実践における「いのち」の捉え方として、その中核に超越性を位置づけた点が挙げられる。このことから、いのち教育は死生観教育、宗教情操教育、生きがい教育、スピリチュアル教育、ホリスティック教育、マインドフル教育などの接合が可能となる。また、スピリチュアルケアやグリーフケアの教育的転回にもなる。

本研究の社会的意義は、公教育の場におけるいのち教育の対象者を明らかにした点が挙げられる。それはまず学校現場での児童・生徒を想定できるが、さらに援助職の従事者ならびに志願者、ファシリテーターとしての教師に広がる必要があること、そして一般市民の生涯教育につながっている。

研究総括

いのち教育は、欧米由来のDeath Educationに端を発することが確認できる。日本では「死の準備教育」と呼ばれ、1980年代にアルフォンス・デーケンによって上智大学に講座が開かれたことが導入の契機である。これは死生学研究（Death and Life Studies）に基づいた「死について考えるための教育」であり、終末期緩和ケアに関わる医療従事者の死生観を育むことを目的として広がっていった。

また、いのち教育には、学校教育での危機意識の中から要請されてきた、という側面がある。子どもたちの生命に関わる深刻な状況は、いじめ、学校不適応、子ども自殺、少年犯罪、児童虐待、近年ではSNSによる犯罪被害など、形を変えながらも後を絶つことがない。こうした状況を憂慮する中で、いのちの大切さ、生命尊重の倫理観を育むことが、学校教育において何よりも喫緊な課題であるとする認識が高まり、主に道徳教育の一環として「いのちの授業」が行われてきた。道徳の『学習指導要領』には、「主として生命や自然、崇高なものとののかかわりに関すること」の項目があり、「生命尊重」の倫理観、そして人間の力を超えたものへの「畏敬の念」を育てることが理念目標として掲げられている。これは「宗教情操教育」の問題ともつながっている。

さらに、いのち教育とは、「日本的スピリチュアリティ」の具現化である、という見方ができる。系譜として禅仏教者の鈴木大拙が提唱した「日本的霊性」に連なるもので、現代の文脈では、多くの日本人が漠然と口にする「無宗教」という言葉の奥に潜んでいる、独特で無自覚な宗教感覚のことである。日本人には「いのち観」とも言えるような、日本の自然風土に培われた伝統文化や風習の基礎づける情緒的な生命や自然、死生に関する感受性がある。

いのち教育は、実際に様々な教育活動と連携することが可能である。例えば、近年の学校教育の現場では、性教育、食育、がん教育、自殺予防教育、地域文化教育、環境教育、平和教育、防災教育、生命安全教育、メディアリテラシー教育などが、特別授業として行われている。ただし、死について考えることをタブー視する学校現場では、生命の安全を確保するための知識や思考、判断などを的確に行うためのスキルに重点が置かれ、公衆衛生に則った健康生活のあり方が強調されることが圧倒的に多い。死生観教育のように、自身の死や他者の死、あるいは死別悲嘆の経験などを直接に考えさせる内容は、動揺や不安を著しく喚起させ、トラウマを植え付けてしまうなどのリスクを考慮して、できるだけ扱わないようにしようとする傾向がある。いのちとは何か、なぜ生まれてきたのか、生きることの意味とは何か、なぜ死ななければならないのか、死とは何か、死んだらどうなるのか、つまりは、私たちはどこから来てどこへ行くのか、といったスピリチュアルな問いが取り上げられることは皆無であり、もしそのような問いが生徒たちの中から出てきた場合は、これを棚上げし、答えのないことをあれこれ考えても仕方がないとして、意図的に回避してしまう。しかしながら、いのち教育が本当に問題にしようとしているのは、まさしくこの考えても仕方がないと棚上げされてしまう、スピリチュアルな問いであり、これこそ本研究が見据えてきた視点であり、総括的な意義であると言える。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計24件（うち査読付論文 14件 / うち国際共著 3件 / うちオープンアクセス 11件）

1. 著者名 稲垣 応顕	4. 巻 創刊号
2. 論文標題 今改めて『信頼される学校づくり』を展望する	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 白鷗大学教職支援センター年報	6. 最初と最後の頁 pp.13-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲垣 応顕	4. 巻 53
2. 論文標題 家庭教育支援の充実による学校・家庭・地域の連携強化	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 日本教材文化研究財団研究紀要	6. 最初と最後の頁 123 128
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 塚原 美穂, 大久保 明子	4. 巻 32巻
2. 論文標題 小児がん患児のきょうだいへの情報提供における看護師のかかわりのプロセス	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本小児看護学会誌	6. 最初と最後の頁 159-167
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20625/jschn.32_159	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 大久保 明子, 伊藤 ひかる	4. 巻 13巻
2. 論文標題 子育てにおける乳幼児への電子メディア使用に対する親の認識に関する文献レビュー	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 新潟県立看護大学紀要	6. 最初と最後の頁 16-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Sevilla-Liu, Anton	4. 巻 30
2. 論文標題 “ The theoretical basis of a functional-descriptive approach to qualitative research in CBS: With a focus on narrative analysis and practice.”	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Journal of Contextual Behavioral Science	6. 最初と最後の頁 210-216
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jcbs.2023.11.001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 坂井祐円	4. 巻 33巻
2. 論文標題 「夢の世界は現実であり実在している」ことを認める多元的実在論の考察：「生と死の境界」の夢の事例をめぐって	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 南山宗教文化研究所報	6. 最初と最後の頁 24 31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15119/0002000505	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 坂井祐円	4. 巻 128
2. 論文標題 いのち教育を考えるために	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 教育哲学研究	6. 最初と最後の頁 153-166
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂井祐円	4. 巻 21
2. 論文標題 誕生の記憶をめぐる物語とケア われわれはどこから来たのか？	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 仁愛大学研究紀要. 人間学部篇	6. 最初と最後の頁 35-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.57426/00001378	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 坂井祐円	4. 巻 40巻第1号
2. 論文標題 恩田彰先生の業績と思索をめぐって	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『人間性心理学研究』	6. 最初と最後の頁 11頁～14頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂井祐円	4. 巻 40巻第2号
2. 論文標題 死生学の始まりと広がり 人間性心理学と死生学の接点	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『人間性心理学研究』	6. 最初と最後の頁 119頁～126頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲垣応顕	4. 巻 創刊号
2. 論文標題 「信頼される学校づくり」のために	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 白鷗大学教職支援センター年報	6. 最初と最後の頁 13頁～18頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 塚原美穂, 大久保明子	4. 巻 31
2. 論文標題 小児がん患児のきょうだい支援の内容と課題に関する国内文献の検討	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本小児看護学会誌	6. 最初と最後の頁 242 250
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大久保明子, 伊藤ひかる, 永吉雅人, 境原三津夫	4. 巻 12
2. 論文標題 学校生活における子どもの健康状態に関する保護者の気付きと健康管理支援のニーズ	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 新潟県立看護大学紀要	6. 最初と最後の頁 17 22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 永吉雅人, 大久保明子, 伊藤ひかる, 境原三津夫	4. 巻 10
2. 論文標題 児童・生徒の健康状態と学校生活における健康支援管理支援ニーズ	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 上越教育大学教職大学院研究紀要	6. 最初と最後の頁 175 183
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 坂井祐円	4. 巻 30
2. 論文標題 自殺予防教育は綺麗ごとなのか	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 仏教教育学研究	6. 最初と最後の頁 235-252
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡部美香 坂井祐円 他4名	4. 巻 27
2. 論文標題 『教育学のバトス論的転回』を読む(1) さまざまな臨床から 日本教育学会・近畿地区理事会企画シンポジウム「『教育学のバトス論的転回』を読む」第一部の報告論文	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 大阪大学教育学年報	6. 最初と最後の頁 41-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18910/86393	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大久保明子 野口祐子	4. 巻 11
2. 論文標題 学童・思春期にある医療的ケアを必要とする児を養育する母親の体験	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 新潟県立看護大学紀要	6. 最初と最後の頁 8-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 坂井祐円	4. 巻 19
2. 論文標題 生まれ変わりをどのように考えるか	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 仁愛大学研究紀要 人間学部篇	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.57426/00000886	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 坂井祐円	4. 巻 38-2
2. 論文標題 特集 仏教と人間性心理学 序文	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 人間性心理学研究	6. 最初と最後の頁 139-149
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大久保明子	4. 巻 15
2. 論文標題 障害児と共に生きる親への支援 - 仏教の教えと仏教看護の視点から -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 仏教看護・ピハーラ	6. 最初と最後の頁 2-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sevilla-Liu Anton, Honda Teruhiko, Mizokami Atsuko, Nakayama Hiroaki.	4. 巻 7
2. 論文標題 Experiences of Mindful Education: Phenomenological Analysis of MBCT Exercises in a Graduate Class Context	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 The Journal of Contemplative Inquiry	6. 最初と最後の頁 195-221
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Sevilla-Liu, Anton	4. 巻 55
2. 論文標題 Mori Akira 's Education for Self-Awareness: Lessons from the Kyoto School for Mindful Education	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Philosophy of Education	6. 最初と最後の頁 243-262
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Sevilla-Liu, Anton	4. 巻 未定
2. 論文標題 From Mori Akira to Narrative Education: Weaving the Tapestry of Narrative Philosophy, Analysis, Therapy, Pedagogy, and Research	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Human Arenas	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 稲垣応顕、松井理納	4. 巻 24
2. 論文標題 不登校 (登校拒否) 問題再考 - 問題の本質・支援の本質を求めて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ジャーナル 教育と時間	6. 最初と最後の頁 66-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計13件（うち招待講演 4件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 伊藤百絵、坂井祐円
2. 発表標題 「むなしさ」から「自分らしく生きること」へ
3. 学会等名 日本人間性心理学会第42回大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 坂井祐円
2. 発表標題 「高齢者福祉と老年的超越」（シンポジウム「仏教はいかに高齢者福祉に貢献できるか」）
3. 学会等名 日本仏教福祉学会第57回学術大会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 坂井祐円
2. 発表標題 「いのちの価値について 生きづらさを感じつつ生きること」（シンポジウム「複数の当事者と当事者の多元性 スピリチュアルケアのまなざしはどこに向けられるのか？」）
3. 学会等名 日本スピリチュアルケア学会第16回学術大会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 坂井祐円
2. 発表標題 カウンセリングはケアなのか？教育なのか？
3. 学会等名 ホリスティック教育/ケア学会（第5回研究大会）（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 坂井祐円(代表)、笥智子、飯田千尋
2. 発表標題 「死者からのケア」の事例とその考察
3. 学会等名 日本グリーフ&ビリーブメント学会(第5回学術大会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 塚原美穂, 大久保明子
2. 発表標題 小児がん患児のきょうだいへの情報提供における看護師の経験プロセス
3. 学会等名 日本小児看護学会第32回学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 永吉雅人, 留目宏美, 大久保明子, 伊藤ひかる, 境原三津夫, 大庭重治
2. 発表標題 化学物質過敏症の児童・生徒に対する支援の実態および香害に関する児童・生徒とその保護者の認識
3. 学会等名 2022年度室内環境学会学術大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山田恵子, 小林宏至, 伊藤ひかる, 伊藤美由紀, 大久保明子
2. 発表標題 入院中の子どもの観察技術習得に向けたシミュレーション教育導入における教育方法の検討
3. 学会等名 第15回日本医療教授システム学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 坂井祐円
2. 発表標題 子どもの自殺について考える
3. 学会等名 日本教育学会・近畿地区理事会企画シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 坂井祐円
2. 発表標題 自殺予防教育は綺麗ごとなのか
3. 学会等名 日本仏教教育学会第30回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 坂井祐円
2. 発表標題 スピリチュアルケアにおいてイメージがもたらす意味
3. 学会等名 日本スピリチュアルケア学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 塚原美穂，大久保明子
2. 発表標題 小児がん患児のきょうだい支援の内容と課題に関する国内文献の検討
3. 学会等名 日本小児看護学会第30回学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大久保明子, 野口裕子
2. 発表標題 学童・思春期にある医療的ケアを必要とする児を養育する母親の支援ニーズ
3. 学会等名 日本看護科学学会 第40回学術集会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 坂井祐円 (編著)、千石真理、玉置妙憂、谷山洋三、井上ウイマラ、石川勇一、池田豊應	4. 発行年 2022年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 224
3. 書名 『仏教は心の悩みにどう答えるのか』	

1. 著者名 竹尾 和子、井藤 元	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 290
3. 書名 ワークで学ぶ発達と教育の心理学	

1. 著者名 坂井 祐円、西平 直	4. 発行年 2020年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 244
3. 書名 無心のケア	

1. 著者名 東洋英和女学院大学死生学研究所	4. 発行年 2021年
2. 出版社 リトン	5. 総ページ数 251
3. 書名 臨床死生学の意義 : 死生学年報	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	瀬平 劉 アントン (Sevilla Anton) (50754438)	九州大学・基幹教育院・准教授 (17102)	
研究分担者	大久保 明子 (Okubo Akiko) (70279850)	新潟県立看護大学・看護学部・教授 (23101)	
研究分担者	坂井 祐円 (Sakai Yuen) (70351244)	仁愛大学・人間学部・准教授 (33403)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	得丸 定子 (Tukumaru Sadako)	上越教育大学・名誉教授	
研究協力者	西平 直 (Nishihira Tadashi)	上智大学グリーンフケア研究所・副所長	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------